

リスクアセスメント対象物健康診断用オンライン問診票トライアル

Trial of online questionnaire for health checkup for risk assessment subjects

製造技術開発部 デジタル技術グループ・DX 推進室 古屋敷啓一郎
情報システム部 システム企画・管理グループ(宇部) 小郷正勝
人事部 健康推進センター 塩田直樹(統括産業医), 前野 孝明(産業医), 大岡朗, 濱地章子
宇部事業所 宇部ケミカル工場 環境安全部 環境安全グループ 前田佳子

Abstract

新たに開始されたリスクアセスメント対象物健康診断において、従来のマークシート方式からインターネットを利用したオンライン問診票への移行トライアルを実施した。当初、工場関係者からは新しい自覚症状申告方法に対する不安の声が上がったが、看護職や保健師による十分な事前説明や入力練習用サイトの提供により円滑に実施できた。産業医は診察対象者の自覚症状を事前に確認することで、より効果的な診察が可能となった。一方で特に高齢者においては、デジタル端末の操作に対する抵抗感が明らかになった。デジタル化が避けられない現状を踏まえ、操作や入力のしやすさを向上させるバリアフリーを意識したユニバーサルデザインのユーザインターフェース設計やヒューマンエラー的な入力ミス低減の工夫が今後求められている。

Key words: リスクアセスメント対象物健康診断, 問診票, 自覚症状, Microsoft, Forms, ヒューマンエラー

1. 緒言

労働安全衛生法第 66 条は事業者の責務として、事業者は一定の有害な業務に従事する労働者に対し、医師による特別の項目について健康診断を行わなければならないとしている。また労働安全衛生規則の改正により 2024 年 4 月 1 日からリスクアセスメント対象物健康診断が始まった。

リスクアセスメント対象物健康診断は、労働安全衛生規則第 577 条の 2 第 3 項に基づき実施される。この診断は、特別規則等の対象物質以外のばく露による健康障害リスクが許容範囲を超えると判断された労働者を対象とする。医師等が必要と認める項目について健康診断を行い、その結果に基づき必要な措置を講じることが求められている。

1. 従来の健康診断の実施方法

通常、健康診断では対象者に受診案内を行い、受診前に体調等に関する自覚症状を問診票に記載させる。受診者はこの問診票を診察時に持参し、医師はその場で問診票を参照しながら診察を行なっている。

当社においては従来から半年ごとに実施している法定の特殊健康診断では受診対象者が多いことから受診者らに健康障害の自覚症状の申告にマークシート方式を採用し、マークシートにリスト化されて記載された自覚症状に鉛筆で濃い線で記載している。ここでマークシート方式は、紙面の面積に制限があり、自覚症状項目が増えてくると箇条書きや単語のみの表記など制約が発生し、受診者が申告する際にも一見して非常にわかりにくい状態になっていた。またマークシートは元々、機械の光学読取りに適したもので診察時にマークシート自体を医師がその場で見ながら問診を行なう際の記載情報確認や参照には全く適していない。診察する医師に対して全くやさしくないシステムを当社では長年続けている。

さらにマークシートは鉛筆書きであり、筆記の字が薄かったり塗る場所がずれたりすると読み落とし、誤って記載して修正する際に消しゴムで丁寧に完全消去しないと機械が誤読しやすい欠点がある。

またマークシート用紙は、読取り装置のために折り目が不可で、当然紙なので水濡れに弱い。ところがリスクアセスメント対象物健康診断を受診

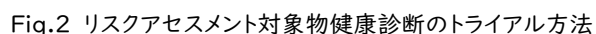
ここで Fig.1 にマークシートを使用している特殊健康診断のフローを示す。Fig.1 中の“LifeMark”とは当社が現在使用している富士通(株)製の健康管理支援システムでオンプレミスの自社サーバーで運用している。



リスクアセスメント対象物健康診断の実施にあたり、受診者の自覚症状を申告させる問診票の実施形態の検討に着手した。従前のマークシート問診票は、マークシートフォーマットの設計からマークシート用紙の印刷、読取りリーダーの設定など相応の準備期間を要し即応性に著しく劣ることから、それとは違う方法を検討した。

ここでは、アンケート調査などの業務にも急速

Forms 自体は社内外を対象にしたアンケート調査や小中高の学校の働き方改革やオンラインテストなどで幅広く活用^(*)されており、問診票に求められる自覚症状の調査は形式的に一般的なアンケート調査と同一であることから容易に応用可能と判断された。Fig.2 にリスクアセスメント対象物健康診断のトライアル方法を示す。



産業医の視点でリスクアセスメント対象物健康診断の診察時に欲しい情報は、取扱っている化学物質の種類や取扱量、除害設備や保護具他の作業環境情報である。これらを踏まえた上

で受診者に顕在化している自覚症状を診察で確認し、業務起因性の疑いがある場合は、それを見極める必要がある。

そこで、受診者からこれらの情報収集ができる Forms の質問フォーマットを新規に設計した。質問フォーマットの基本設計思想は、自由記述を減らした選択肢による定型化を行なっている。テキストの自由記述としたのは、氏名、取扱う化学物質名と系統ごとに提示した自覚症状がない場合のその他の症状に限っている。それら以外は、すべて選択肢から単一もしくは複数をチェックで選ぶ形式とした。

作業情報の質問事項は、厚生労働省が普及を進める化学物質リスクアセスメントツール“CREATE-SIMPLE”の設定項目を利用した。

また自覚症状の質問事項は、産業医科大学産業生態科学研究所 大神明教授らによる厚生労働科学研究費補助金(22JA0301)、令和 5 年度 総括研究報告書「特殊健康診断等のデータ入力標準化およびデータ利活用ツール開発のための研究」で提示されている特殊健康診断自覚症状問診票の自覚症状項目をそのまま利用した。

Forms で作成したオンライン問診票サイトの画面を添付資料に示す。画面枚数としては 17 枚になる。入力時の省力化で自覚症状のない系統は「自覚症状がない」を選ぶと次の系統にスキップするようにして、申告時の受診対象者にエンドレスな印象を与えないように配慮した。また Forms の機能である進捗状況バーも活用し、自覚症状を入力している受診対象者に自覚症状申告の進み具合も見えるようにした。

2.3. Forms に入力された問診票の閲覧

なお Forms に入力されたリスクアセスメント対象物健康診断の受診者個人情報や自覚症状はクラウドサーバーから csv ファイルとしてダウンロードする。通常、csv ファイルでダウンロードすると

Microsoft 社 Excel のような表計算ソフトウェアで表示させることになるが、作業概要や自覚症状の項目順に列方向にそれらが延々と並び、行方向は受診者の入力順に並んでいく。

診察を担当する医師は、この状態の Excel の表形式のままでは見辛いので、Fig.3, Fig.4, Fig.5 に示すような従業員の氏名コードで受診者ごとに抽出表示させる Excel マクロを組んで簡易ビューとして運用した。

2.4. Forms への問診票適用の改善・期待効果

通常、自社で保有する業務用サーバーにはサイバーセキュリティの観点からパーソナルコンピュータ、スマートフォンとも会社が支給した端末しかアクセスを認めていない。ところが SaaS の Forms は、このような制約を受けることなく会社支給のパーソナルコンピュータ、スマートフォンの他にリスクアセスメント対象物健康診断受診者が私的に保有しインターネットにつながるパーソナルコンピュータ、スマートフォンからもアクセスが可能である。

これは、自覚症状の申告といった個人情報保護法の要配慮個人情報に該当するような同僚であっても人に見られたくない情報を自宅などから使い慣れた端末から回答できる利点に繋がる。



Fig.3 受診者問診票情報の抽出画面

2025 年 3 月

項目	内容
リスクアセスメント対象物健康診断受診者氏名コード (p0001)	00001
リスクアセスメント対象物健康診断受診者氏名 (漢字かな) (p0002)	宇部一郎
リスクアセスメント対象物健康診断受診者氏名 (カナ) (p0003)	ウベイチロウ
リスクアセスメント対象物健康診断受診者氏名 (フリガナ) (p0004)	ウベイチロウ
リスクアセスメント対象物健康診断受診者生年月日 (p0005)	1/1/1980
過去に発生した化学物質関連の医療記録 (p0007)	UBEまたはUBEグループ内で化学物質を扱っている
リスクアセスメント対象物健康診断の範囲 (有無) (w0041)	あり
リスクアセスメント対象物健康診断の範囲を指定する (該当するものを記入してください) (w0042)	フルタイムで作業している
リスクアセスメント対象物健康診断の範囲を指定する (該当するものを記入してください) (w0043)	127-19-5
リスクアセスメント対象物健康診断の範囲を指定する (該当するものを記入してください) (w0044)	作業時間が1日以上で合計作業時間40時間超 または1日の作業時間が8時間超かつ頻度が週3回以上
リスクアセスメント対象物健康診断の範囲を指定する (該当するものを記入してください) (w0045)	身体 1L~15L未満
リスクアセスメント対象物健康診断の範囲を指定する (該当するものを記入してください) (w0046)	高圧 低圧性 (高圧150℃以上)
リスクアセスメント対象物健康診断の範囲を指定する (該当するものを記入してください) (w0047)	スプレー作業など空気中に飛散しやすい作業
リスクアセスメント対象物健康診断の範囲を指定する (該当するものを記入してください) (w0048)	あり
リスクアセスメント対象物健康診断の範囲を指定する (該当するものを記入してください) (w0049)	既に入っている使用・保管・廃棄・廃棄後の化学物質の取り扱い
リスクアセスメント対象物健康診断の範囲を指定する (該当するものを記入してください) (w0050)	工業的な全体的、部分的、工業的な全体的、部分的
リスクアセスメント対象物健康診断の範囲を指定する (該当するものを記入してください) (w0051)	化学物質の取り扱い作業に立ち会った作業員との距離は1m以上
リスクアセスメント対象物健康診断の範囲を指定する (該当するものを記入してください) (w0052)	安全管理者

Fig.4 医師・看護職用の Excel 簡易ビュー表示画面①

項目	内容
全身一般	自覚症状がある
全身一般の自覚症状	疲れやすい (s0102) ;
メンタル系	自覚症状がある
メンタル系の自覚症状	イライラしやすい (s0201) ; (集約) (s0201) ;
神経系	自覚症状はない (s0300)
神経系の自覚症状	
呼吸器系	自覚症状はない (s0400)
呼吸器系の自覚症状	
消化器系	自覚症状がある
消化器系の自覚症状	腹が痛む (s0506) ; 腹が膨らむ (s0507) ;
皮膚科系	自覚症状がある
皮膚科系の自覚症状	痒み、赤み、腫れ、かさつき (s0607) ; 口内にも自覚がある (s0608) ; 口が乾く・口が臭い (s0610) ;
泌尿器系	自覚症状がある
泌尿器系の自覚症状	おしよりの回数 (s0704) ; おしよりの量 (s0705) ;
循環器系	自覚症状がある
循環器系の自覚症状	動悸がする (心拍数) (s0803) ;
内分泌系	自覚症状がある
内分泌系の自覚症状	汗が止まらない (s0905) ; 汗が止まる (s0906) ;
血液系	自覚症状がある
血液系の自覚症状	血が止まりにくい (s1001) ;
皮膚科系	自覚症状がある
皮膚科系の自覚症状	皮膚の発疹が赤い (s1101) ; 皮膚のかゆみがある (s1103) ; 皮膚の乾燥がひどい (s1107) ;
泌尿器系	自覚症状はない (s1200)
泌尿器系の自覚症状	
消化器系	自覚症状はない (s1300)
消化器系の自覚症状	
その他の症状 (s9900)	特になし

Fig.5 医師・看護職用の Excel 簡易ビュー表示画面②

2.5. Forms オンライン問診票

Forms での自覚症状入力用に新規に作製した問診票フォーマットを添付資料-1 に示す。Forms の諸設定を Table-1 に示す。

Table-1 Forms の諸設定

設定項目	設定値
入力期間	期間設定あり、健康診断の1週間前から最終の健康診断日まで。
共同作業員設定	産業医、看護職、健康推進センター関係者、情報システム関係者 ※Forms 入力情報出力や情報利用者
回答者設定	すべてのユーザ
回答者へ Forms の URL 案内	パワーポイント記載のリンク付き URL QR コード化 URL
進捗状況表示	進行状況バーの表示あり
回答者お礼メッセージ	あり。 「オンライン問診は、これで終了です。労働衛生研究へのご協力ありがとうございました。今回、オンライン問診にご協力頂いた方には後日、簡単なアンケート調査をお願いすることがあります。引き続きよろしくお願い致します。」
応答の受信確認	送信後に応答の受信を許可する

2.6. オンライン問診票の社内導入方法

オンライン問診票導入にあたり、次のようなステップを踏んでトライアルに至った。

- ① オンライン問診票導入の主旨や概要を工場の労働衛生主管部署関係者に説明
- ② プロトタイプ of オンライン問診票で問診票回答の入力体験と体験コメントの聴取
- ③ プロトタイプ of 入力体験で出された問題点や気づきなどの指摘を反映しながら本番で使用する Forms の問診票フォーマットの作成と改善
- ④ 詳細な問診票入力手順書を作成し看護職や保健師から健康診断対象者に事前に十分な案内や説明を実施。今回のトライアルで各箇所を担当する看護職らが準備した手順書を添付資料-3 に示す。
- ⑤ 今回リスクアセスメント対象物健康診断の

対象者らは初めての健康診断の上に問診票も初見でさらにオンライン入力としたことから、いきなり本番入力を求めず、本番用と全く同一の練習用 Forms サイトを別途準備し、入力体験や入力練習は練習用で自由に使っていていいとした。

- ⑥ リスクアセスメント対象物健康診断実施の準備、受診対象者への案内などのスケジュール等を添付資料-4 に示す。

3. オンライン問診票の実施結果

3.1. オンライン問診票の入力時間

11 月下旬に実施した第一陣のリスクアセスメント対象物健康診断の受診者 63 名の問診票入力に要した時間は、Forms 問診票へのログイン・ログアウト時刻（分単位まで）で確認できる。最短は 5 分、最長は 38 分で平均値は 12 分 29 秒になる。Fig.6 に入力所要時間の分布を示す。今回の 63 名の大半は 20 分以内に入力できており、中央値で見ると 11 分だった。おそらく 2 回目以降の大半の従業員は入力方法やサイトの構造にも慣れているので正味で 10 分も掛からずに申告できるようになると推察される。

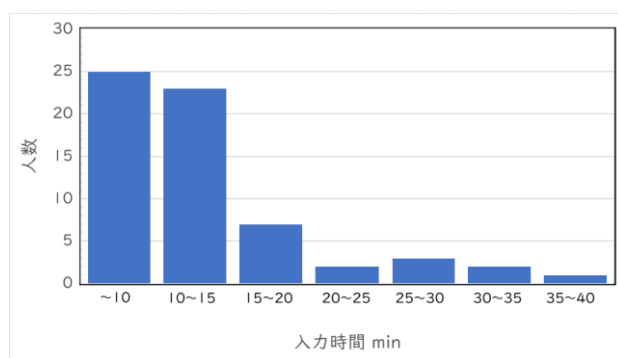


Fig.6 オンライン問診票の入力時間

3.2. オンライン化への受診者らの賛同状況

今回のトライアルでは、問診票のオンライン化に強く抵抗感を持つリスクアセスメント対象物健康診断対象の従業員に対し、強制的なオンラインでの自覚症状申告を強要していない。

Forms の設計では最初にオンライン実施への同意者のみにお願いし、拒否の場合は添付資料-2 に示す問診票 自覚症状リスト兼チェックリストに当日記載して持参するようにしていた。

第一陣の 63 名に関してはオンライン問診票にアクセスした後、オンラインで回答しなかった従業員は一人もいなかった。全員、オンラインで回答している。

3.3. オンライン化の効果

オンライン問診票化による Forms 問診票の管理者ならびに共同作業者は、自覚症状申告の進行状況をリアルタイムで簡単に知ることができる。Forms の応答の概要画面を Fig.7 に示す。



Fig.7 Forms の応答の概要画面

例えば、診察の担当医師を Forms 問診票の管理者あるいは共同作業者に設定しておくで随時申告された問診票の内容を閲覧でき、受診者から申告された自覚症状を予習しておき診察で積極的に確認すべき内容等の準備を行ないやすくなる。

また Forms に蓄積された情報は、csv ファイル形式で出力し、一般的には表計算ソフトウェアの Excel シートで閲覧する。この状態が見易いとは言いが、Excel の機能を使って取扱いの化学物質や所属などでフィルタリングするだけでも簡単なデータ分析が可能である。

受診者管理をしている看護職であれば、対象者の職場でフィルタリングしたり、氏名、氏名コードなどでソートしたりすれば、未申告者の管理を容易にできる。

紙のマークシートではこのような作業や分析は全て手作業でしか対応できずデジタル化の利点

である。

3.4. オンライン問診票の問題点と考察

当初本トライアルの概要説明やプロトタイプのオンライン問診票を工場の労働衛生主管部署関係者に提示、体験した際のコメントの多くが Forms の入力の簡略化や操作方法の不慣れからくる扱いにくさが過半を占めた。特に高齢の関係者からはスマートフォン自体の操作不慣れからくる扱いにくさの指摘もあった。

特にスマートフォンでの入力で当初不評を呈した事例として、誕生日のポップアップカレンダーによる入力がある。Forms のカレンダーは現時点の日付を含む 1 ヶ月単位を最初示すのでサイトのカレンダーに表示されている矢印のタッチで誕生日を遡ると高齢者ほど延々と遡ることになった。実は、Forms のカレンダーの年の表示自体が切替えスイッチになっており、ここをタッチすれば数十年前でも容易に遡れるようになっている。ここで特にコマンドスイッチやアシストコメントが出ないので、スマートフォンのアプリケーションに不慣れなユーザほど気付かずに使いにくいとの問題が発生してしまった。

現状のスマートフォン用のアプリケーションは、直感的な操作で画面切替えだったり機能スイッチ起動だったりするのでバリアフリーな使い方自体をユーザに明文化して適宜伝える必要がある。これに限らないが、パーソナルコンピュータやスマートフォンなど使用する端末の使い勝手や操作への慣れやスキルが従業員によって大きく異なり、オンライン化を進める上での避けて通れない課題と改めて認識した。

またマークシートの問診票では紙面の広さの都合から極端に短縮した問いが散見されるが、長年使っているこれと同じ問いを Forms の問診票に転載したところ、マークシートでは回答していたにも関わらず意味が解らないなどの苦情もあった。結局、紙面の都合で簡略化しすぎた問いに

回答する受診者自身も正確な問いの意味や内容を曖昧なままに長年回答していたことが伺われる。

今回、直属の職制や従業員本人の申告に基づきリスクアセスメント対象物健康診断の対象者に受診案内したもののオンライン問診票の質問フローの中でリスクアセスメント対象物の取扱いを『なし』とチェックして取扱い化学物質や作業概要を入力していない従業員が 63 名中の 2 名発生した（発生率 3.2%）。それが入力者本人の意思（事実）なのか、それとも単純な入力ミスで『あり』とすべきところを誤入力で『なし』としてしまったのかの区別がつかない事例である。

仮に単純なうっかりミスの誤入力であったとすると、本人らは申告したつもりでもリスクアセスメント対象物健康診断から本人も気付かぬうちに漏れてしまう懸念を含んでいる。

それも今後リスクアセスメント対象物健康診断の母集団が大きくなるほど一定の発生確率でこのようなうっかりミスを犯す従業員の発生を想定すると今回の 3.2%の発生率は決して小さくない。

UBEグループの作業記録管理システムの利用ユーザ数から推察するに日々化学物質を取扱う作業をしている従業員が約 1000 名近くいる。仮に現状のオンライン問診票で自覚症状をこれら全員に申告させると毎回 32 名が同様なうっかりミスを引き起こす可能性を示唆している。

芳賀繁^(*)によると JR で実施した指差呼称のエラー防止効果を検証する実験結果では指差呼称をしない場合の誤反応率は約 2.4%であり、指差呼称を行なうと約 0.4%まで低減できている。指差呼称が注意喚起を引き起こし、ヒューマンエラーの発生を防止する効果である。しかし、今回の問診票入力に一つ一つ指差呼称を行ないながら注意力を高めて問診票に入力確認した受診者はまずいないと思われ、芳賀の指差呼称をしない場合の誤反応率と同等程度の入力ミス

を発生させている可能性が極めて高い。ヒューマンエラー発生率の数値としてみると妥当であろう。

したがって一般に常に人の作業や動作にはミスがつきまとうことを考慮し、問診票のシステム的には質問のフローを工夫して、例えば重要な質問で意図せぬ回答を入力した場合に備え、『なし』で次へ進める際は一旦入力者に再確認させるステップを組込んでおき、本人に過ちを気付かせ、誤った質問まで戻れるようなフローの組み込みが入力ミス低減に効果的と考えられる。

おそらく従来のマークシート方式でも同様な塗場所間違いなどの単純ミスによる誤申告は一定頻度発生していたと容易に想像できるが、マークシートではマークを読み取るまで確認されなかったのとそれが診察後だったので顕在化しなかった可能性が極めて高い。またマークシート方式にはオンライン問診票のような誤記入のチェック機能を持たせられない。

ところが今回実施したオンライン問診票ではこのような誤入力チェックや注意喚起を自己完結で組み込み、その場で修正できるのはデジタル化による新たな強みになる。

ただし、このような念押しや再確認のステップを増やし過ぎると入力者に面倒くささや入力の負担感を感じさせる要因に繋がるので重要な質問のみに限定すべきであろう。

最後に当初、想定した問診票入力場所や入力に使用したデジタル端末などは Forms のログで取れないので後日受診者らにアンケート調査を行なってリスクアセスメント対象物健康診断の問診票入力の実態を明らかにする予定である。

4. 結言

Microsoft の Forms を使ったオンライン問診票の初めてのトライアルを実施した結果、問診票フォーマットの新規製作を含めても約 2 ヶ月で準備することができた。

Microsoft 社の提供するプラットフォームを利用する利点は大きい。独自に製作する業務用システムで私用のパーソナルコンピュータやスマートフォンを入力端末に加えるのはサイバーセキュリティの観点から正直容易でなく、セキュリティ対策に相当な手間や工数を割かねばならなくなる。その点でサイバーセキュリティ対策も十分に講じられている大手システムベンダーの提供するプラットフォームの活用ならではの強みであろう。

また医師も診察対象者らの自覚症状の申告状況を日々確認しつつ申告された自覚症状を事前に見ておき準備の上、診察に臨むことができる点も大きな利点である。従来の当日持込みのマークシートに記載された自覚症状をその場で初めて見てからの診察との違いは大きい。

単に問診票のデジタル化による省力化だけでなく、業務起因性の健康障害の検知精度や確度向上に必ず役立つものと期待している。

参考文献

- *1) 文部科学省, 全国の学校における働き方改革事例集, 令和 5 年 3 月改訂版,
https://www.mext.go.jp/content/20230320-mxt_syoto01-000028353_1.pdf
- *2) 厚生労働省, 職場の安全サイト, CREATE-SIMPLE,
https://anzeninfo.mhlw.go.jp/user/anzen/kag/ankgc07_3.htm
- *3) 大神明(産業医科大学 産業生態科学研究所), 厚生労働科学研究費補助金(22JA0301), 令和 5 年度 総括研究報告書「特殊健康診断等のデータ入力標準化およびデータ利活用ツール開発のための研究」, (2023)
- *4) 芳賀繁, 心理学はどのように安全に貢献できるか, Japanese Psychological Review, Vol.60, No.4, pp. 353-361, (2017)

Forms サイト画面 2

[illegible]

Forms サイト画面 3-2(*2)

13. リスクアセスメント対象物質のばいじん濃度を算定する。算定するものを選んでください。(w00444) *

○ ばいじんや浮遊粉塵が家庭内における健康被害の原因となる物質(フタル酸、シクロヘキサン、臭素酸、五酸化二リンなど)

☐ 粉体 低刺激性 (嗅れないレベル)

☐ 粉体 中刺激性 (結晶状・粒状状)

☐ 粉体 高刺激性 (溶解性・粘着性)

☐ 液体 慢性刺激性 (蒸気圧0.5Pa未満)

☐ 液体 低揮発性 (沸点150℃以上)

☐ 液体 中揮発性 (沸点150～190℃)

☐ 液体 高揮発性 (沸点150℃未満)

14. リスクアセスメント対象物質を扱う装置の稼働すべき作業内容です。該当するものを全て選んでください。(複数選択可) (w00445)

☐ 実験作家など実習中に用いたりする作業

☐ 化学物質の合計重量が容器1m²超 かつ 数量は5kg以上

15. この1年間にリスクアセスメント対象物質の作業態様や作業方法の変更がありましたか。(w00446) *

☐ はい

☐ いいえ

16. リスクアセスメント対象物質作業時に使用している保護具を選んでください。(複数選択可) (w00447) *

☐ 防じんマスク型器具 (全面形面体、半面形面体)

☐ 防じんマスク型器具で式

☐ 防護マスク (全面形面体、半面形面体)

☐ 防じん機能を持つ電気ファン付呼吸器用器具 (全面形面体、半面形面体、フットホールド/フェイスシールド)

☐ 防じん機能を持つ電気ファン付呼吸器用器具 (全面形面体、半面形面体、フットホールド/フェイスシールド)

☐ 保護衣類

☐ 保護靴

☐ 化学防護用手袋

☐ 化学防護用ケツム

☐ イヤープラグ

☐ その他

☐ 特になし

☐ その他

リスクアセスメント対象物健康診断 オンライン問診票の画面集

Forms サイト画面 4^(*3)

17. スタジアメント対象物群を囲っている作業場の除去条件を選んでください。（複数選択可）（w0048） *

☐ 柱・柱なしの1層

☐ 一般の全体状況

☐ 工場の半全体状況、部分作業

☐ 隔断障壁（外付式）

☐ 隔断障壁（固定式）

☐ 近接容格内での取り扱い

18. スタジアメント対象物群を数個作業室内線で囲うものも全て選んでください。（複数選択可）（w0048） *

☐ 化学物質を直接使用

☐ 化学物質付付で作業

☐ 皿で作業

☐ 皿で作業

☐ 化学物質との距離≧1m未満

☐ 化学物質との距離≧1m以上

☐ その他

19. スタジアメント対象物群を囲っている作業場所の確保決定基準を教えてください。（複数選択可）（w0050） *

注意

第一要項は、施設長が作業開始前に入場した作業員に発生する有害物質の濃度を測定度で示した記録を提出し、作業管理責任者が記入し検閲された結果を第二要項に、施設長が作業開始前と作業中有害物質の濃度を測定する程度を記入した記録を提出し、第一要項に記入し、作業管理責任者と施設長が記入した検閲の結果を第三要項に、施設長が作業開始前と作業中有害物質の濃度を測定する程度を記入した記録を提出し、第一要項に記入し、作業管理責任者と施設長が記入した検閲の結果を第三要項に記入する。

☐ 第一要項区分

☐ 第二要項区分

☐ 第三要項区分

戻る 次へ

[illegible]Forms サイト画面 6^(*3)[illegible]

【本番rev2】リスクアセスメント対食物健康診断 新問診票（タイプA、作業状況・自覚症状）

* 必須

自覚症状（神経系）

24. 神経系：

「自覚症状が全くない」と回答した場合は、「自覚した自覚症状がない」と回答する。

- ☐ 自覚症状はない（a0300）
- ☒ 自覚症状がある

25. 神経系の自覚症状

「目や耳の異常」は必ず記入してください。（複数選択可）。 *

- ☐ 記憶力が低下した（a0301）
- ☐ 字が書けづらくなった（a0302）
- ☐ 言葉が思いつくことがなくなった（a0303）
- ☐ 頭が重くなった（a0304）
- ☐ 頭が重い（a0305）
- ☐ 歩調が狂った（a0306）
- ☐ 体がふらふらする（a0307）
- ☐ 手足がしびれる（a0308）
- ☐ 手が握る力（握力）が落ちた（a0309）
- ☐ 手指の感覚異常がある（a0310）
- ☐ 手足の感覚が鈍い（a0311）
- ☐ 力を加えにくい（握力減衰）（a0312）

ページ 1 / 1

Microsoft Word

この文書は Microsoft Word のファイル形式で保存されています。この形式では、この文書の編集と印刷に必要十分な機能が提供されます。Microsoft Word のこの形式での保存を行うには、この文書を Microsoft Word のファイル形式で開き、その状態で保存する必要があります。この文書を他の形式で保存するには、この文書を他の形式で開き、その状態で保存する必要があります。この文書を他の形式で保存するには、この文書を他の形式で開き、その状態で保存する必要があります。

添付資料-1

リスクアセスメント対象物健康診断 オンライン問診票の画面集

Forms サイト画面 7(*3)

【本番用rev2】リスクアセスメント対象物健康診断 新問診票（タイプA、作業状況・自覚症状）

* 必須

自覚症状（筋骨格系）

26. 筋骨格系*

(※質問の回答は、右側の該当する回答を、左側の全質問に対して行う必要があります。)

☐ 自覚症状はない (s0400)

 自覚症状がある

27. 筋骨格系の各要素に関する質問事項

質問する各項目に該当するかどうかについて（複数選択可）。*

☐ 関節が痛い (s0401)

☐ 筋肉が痛い (s0402)

☐ 手足が痛い (s0403)

☐ 手指が痛い (s0404)

☐ 腰が痛い (s0405)

☐ 歩く時などにくらくらする (s0406)

☐ 細かい動作が出来なくなった (s0407)

戻る
進む

ページ 1/10



©2023 マイクロソフト・コーポレーション。この文書は、2023年1月1日現在、日本国内で最新の製品バージョンに基づいて作成されています。Microsoft は、この文書の将来の更新や改訂を予告なく行い得ることを保留しています。これは最終的な文書であり、改訂されたものは、必ずしもこの文書と一致しない場合があります。詳しくは [https://aka.ms/microsoft-rev2-ja-jp](#)

Microsoft Korea (K) Co., Ltd. の登録商標。この文書は、2023年1月1日現在、日本国内で最新の製品バージョンに基づいて作成されています。Microsoft は、この文書の将来の更新や改訂を予告なく行い得ることを保留しています。これは最終的な文書であり、改訂されたものは、必ずしもこの文書と一致しない場合があります。詳しくは [https://aka.ms/microsoft-rev2-ja-jp](#)

Forms サイト画面 8^(*3)[illegible]

Forms サイト画面 9(*3)

[illegible]Forms サイト画面 10^(*)3)[illegible]

添付資料-1

リスクアセスメント対象物健康診断 オンライン問診票の画面集

Forms サイト画面 11(*3)

Forms サイト画面 12(*3)

Forms サイト画面 13(*3)

Forms サイト画面 14(*3)

Forms サイト画面 15(*3)

Forms サイト画面 16(*3)

添付資料-I

リスクアセスメント対象物健康診断 オンライン問診票の画面集
Forms サイト画面 17(*3)

体験版 オンライン問診票 Forms サイト



【注記】

- ・本トライアルで実際に使用したオンライン問診票の体験版です。
- ・自由に入力して構いませんが本サイトの管理者が閲覧する可能性があります。閲覧されて困るような情報は入力しないでください。

【公開期間】

2024 年 12 月 1 日～2025 年 9 月 30 日まで

【URL】<https://forms.office.com/r/a3vDgHVCQa>

問診票 自覚症状リスト兼チェックリスト(*3)



2024 年度下期 リスクアセスメント対象物健康診断

人事部 健康推進センター

オンライン問診票の自覚症状リスト兼チェックシート

リスクアセスメント対象物オンライン問診票でお尋ねする自覚症状項目です。オンライン入力する前に
 予め目を通して頂くか、本ページを印刷して該当する自覚症状にチェックをしてから入力されることを推
 奨します。

自覚症状の大分類

- | | | |
|-----------|----------|------------|
| 1. 全身一般 | 7. 呼吸器系 | 13. 口腔歯科系 |
| 2. メンタル系 | 8. 循環器系 | 99. その他の症状 |
| 3. 神経系 | 9. 消化器系 | |
| 4. 筋骨格系 | 10. 血液系 | |
| 5. 眼科系 | 11. 皮膚科系 | |
| 6. 耳鼻咽喉科系 | 12. 泌尿器系 | |

大分類	自覚症状
1. 全身一般	☐ 該当する症状はない
	☐ 体がだるい
	☐ 疲れやすい
	☐ 眠れない
	☐ 日中に強い眠気がある
2. メンタル系	☐ 該当する症状はない
	☐ イライラしやすくなった(焦燥感)
	☐ 集中力が低下する
	☐ 不安感がある
3. 神経系	☐ 抑うつ感がある
	☐ 該当する症状はない
	☐ 記憶力が低下した
	☐ 字が書きづらくなった
	☐ 言葉を話しづらくなった
	☐ 頭が痛い
	☐ 頭が重い
	☐ めまいがする
	☐ けいれんする
	☐ 手足がしびれる
	☐ 手が震える(振顫)
	☐ 手指の知覚異常がある
	☐ 手足の感覚が鈍い
	☐ 力が入りにくい(握力減退)

大分類	自覚症状
4. 筋骨格系	☐ 該当する症状はない
	☐ 関節が痛い
	☐ 筋肉が痛い
	☐ 手足が痛い
	☐ 手指が痛い
	☐ 腰が痛い
	☐ 歩く時ふらつく
	☐ 細かい動作が出来なくなった
5. 眼科系	☐ 該当する症状はない
	☐ 眼がチカチカする
	☐ 眼が充血する
	☐ 涙が出やすい
	☐ 異常にまぶしさを感じる
	☐ 眼が痛い
	☐ 眼が疲れる
	☐ 眼がかすむ
	☐ ものが見えづらくなった(視力低下)

2025 年 3 月

添付資料-2

問診票 自覚症状リスト兼チェックリスト(*3)



2024 年度下期 リスクアセスメント対象物健康診断

大分類	自覚症状	大分類	自覚症状
6.耳鼻咽喉科	☐ 該当する症状はない	12.泌尿器系	☐ 該当する症状はない
	☐ 耳鳴りがする		☐ 尿の着色が目立つようになった
	☐ 鼻の奥が痛む		☐ 尿が出なくなった、少なくなった
	☐ 鼻やのどがイガイガする		☐ 血尿が出るようになった
	☐ 鼻水が出る		☐ 尿の回数、量が多くなった
	☐ 鼻血が出る		☐ 排尿時に痛みがある
	☐ 臭いがしなくなった	13.口腔歯科系	☐ 該当する症状はない
	☐ 異味、味が感じにくくなった		☐ 歯に色素沈着が目立つようになった
	☐ 口内に炎症がある		☐ 歯肉の痛みや出血が続く
	☐ 舌が着色するようになった	☐ 歯の変化が目立つようになった	
	☐ 口が渇く・口渇感がある	99.その他の症状	☐ その他の症状がある場合以下に自由記載してください
	☐ 声がかれる		
	☐ のどが痛い		
	7.呼吸器系	☐ 該当する症状はない	
☐ 息苦しい、息切れがする			
☐ 呼吸器の刺激症状			
☐ 上気道の刺激症状			
☐ せきが出る			
☐ たんが出る			
☐ 該当する症状はない			
☐ 胸が痛い			
8.循環器系	☐ 脈が乱れる		
	☐ 動悸がする(心悸亢進)		
	☐ 該当する症状はない		
9.消化器系	☐ 胸が痛い		
	☐ 脈が乱れる		
	☐ 動悸がする(心悸亢進)		
	☐ 該当する症状はない		
	☐ 食欲がわかない・食欲不振がある		
	☐ 急に痩せてきた・体重減少がある		
	☐ よだれが止まらない		
	☐ 上腹部の不快感/異常感・上腹部痛がある		
	☐ 胃がムカムカする		
	☐ 吐き気がする、よく嘔吐する		
10.血液系	☐ 下痢が続く		
	☐ 便に血が混ざる、便が黒い		
	☐ 便秘が続く		
11.皮膚科系	☐ 該当する症状はない		
	☐ 該当する症状はない		
	☐ 皮膚の湿疹が続く		
	☐ 皮膚がチクチクする		
	☐ 皮膚のかゆみが続く		
	☐ 顔面や皮膚が蒼白くなった		
	☐ 眼や皮膚が黄色くなった		
	☐ 手指皮膚のカサカサが続く		
	☐ 急にイボや色素沈着ができた		
	☐ 汗が異常に出る		

2025 年 3 月

添付資料-3

オンライン問診票 受診者向けの案内・説明書

リスクアセスメント健診 問診票オンライン化トライアル

主旨・目的

今回は健診における問診票のオンライン化トライアル実施です。今後、リスクアセスメント健康診断を実施していくにあたり、健診の効率化や健診データの有効活用を検討しています。作業状況や自覚症状をデジタル化することで、データの整理、結果集計の負荷軽減等の効果を検証します。

対象部署

実施主旨から、現在法定外健診として健診を実施している2部署にご協力をお願い致します。

部署(工場)	対象物質	2024後期健診内容
		通常の項目+WEB問診
		WEB問診のみ *医師診察はありません

*は、じん肺健診として実施しておりますが、今回はWEB問診のみの実施です(胸部レントゲンはありません)。

健診機関より事前配布されている紙問診票は、従来通りご回答いただき、健診当日にご持参ください。

WEB問診回答方法

会社貸与のPC・スマホ/個人のPC・スマホ いずれも回答可能です

■回答期間:11月20日(水)~11月26日(火)
※11月26日を過ぎても構いません。
26日以降となる場合は、**受診日の前日までに**ご入力をお願い致します(診察で確認のため)。

■回答先:<https://forms.office.com/r/5ZW1eDdyJG>
※回答は1回のみです。
お間違えないよう、ご注意ください。
※健診対象ではない方(職制等)は、[こちらの練習用サイト](#)から同じ画面を閲覧・入力可能です。

健診終了後、アンケートのご協力をお願い致します(2024年12月~2025年1月頃予定)。今回のトライアルの問題点等を抽出、整理し、今後の健康診断問診票の設計に反映します。

回答画面(入力方法) ※注意する箇所等を抜粋しています。入力の際、ご活用ください。

1. 注意事項 *

リスクアセスメント対象健康診断は、従来の法定で対象化学物質を定められた特殊健康診断とは別に産業医の意見や判断を基に事業所の責任で実施するものです。ただし、リスクアセスメント対象健康診断を受診される方の負担軽減を目的に今回は自覚症状の自己申告をオンライン化するトライアルを実施します。当社は初めての試みにて、主旨にご賛同いただける方をお願いするものであり必須ではありませんが、2024年下期の特殊健康診断の産業医診察時に産業医は申告された自覚症状として参照します。本オンライン新問診票にご協力頂いた方には、リスクアセスメント対象健康診断終了後に別途、簡単なアンケートをお送りしますので、後日、そちらにもご協力頂きますようお願い申し上げます。

☒ 主旨に賛同しオンライン問診票に回答します ← **こちらを選択ください**

☐ 主旨に賛同しません

回答画面(入力方法) ※注意する箇所等を抜粋しています。入力の際、ご活用ください。

6. リスクアセスメント対象健康診断受診年月日 (p0005) *

例 1990年9月15日生まれは「1990/09/15」と入力してください。またはカレンダーから選択してください。なお、スマートフォンはカレンダー入力が可能です。

日付を入力してください/yyyy/MM/dd

スマホ入力の場合
スマートフォンのカレンダーは表示の切替えができるので西暦を大きく選ぶときなどは以下の操作でカレンダーを切替えると入力操作が容易になります。



①カレンダー入力表示 (表示内容: 11月) ②カレンダー表示切替え (年単位) ③カレンダー表示切替え (10年単位) ④カレンダー表示切替え (年単位)

回答画面(入力方法) ※注意する箇所等を抜粋しています。入力の際、ご活用ください。

作業概要 (リスクアセスメント対象物質)

労働安全衛生法のリスクアセスメント対象化学物質には、がん原性物質、変異原性物質、生殖毒性物質などが含まれます。これらは健康、繁殖能力を損なう可能性があります。リスクアセスメント対象健康診断はその危険性を評価し、健康被害予防を目的とされています。

GHS (国際化学品分類法・表示システム) のラベル・ pictogram が設定されている化学物質のうち、業務が有害性が高いと判定する化学物質が対象になります。

8. リスクアセスメント対象物質の取扱いは (w0041) *

☐ なし

☒ **あり** ← **「あり」を選択 ※選択すると9.以降の設問が展開します**

9. リスクアセスメント対象物質の名称を全角で入力してください。 (例: N,N-ジメチルアセトアミド) (w0052)

回答を入力してください

下記を入力ください

工場の方...
工場の方.....

10. リスクアセスメント対象物質のCAS番号を半角英数字で入力してください。 (例: 127-19-3) (w0051)

CAS番号が不明な場合は入力しなくても構いません。

回答を入力してください

未回答で構いません (入力されても問題ありません)

設問11~19は、**今回対象の物質** () の取扱状況・作業管理・作業環境管理に関する設問です。

回答画面(入力方法) ※注意する箇所等を抜粋しています。入力の際、ご活用ください。

自覚症状

これからおこなう健康診断について、化学物質を扱った業務あるいはその場に就いている自覚症状になります。内容は、大人数で14項目あり、該当の自覚症状にチェックをしてください。未読の「その他の症状」のみテキスト入力です。ここではチェックリストに該当する自覚症状や病状になっている内容を自由に記載ください。

20. 全身一般 *

「自覚症状がある」を選択すると、詳細な自覚症状リストが展開します。

☐ 自覚症状はない (s0100)

☐ 自覚症状がある

設問20~33は自覚症状の有無の確認です。
「自覚症状がある」を選択すると、選択肢が展開されます。

以上でオンライン問診票は終了です。ご協力ありがとうございました。

戻る **送信**

忘れずに「送信」ボタンをクリックしてください

